

探訪 チャレンジ企業 31

繊維産業から鉄工業へ
そして世界企業へと挑戦
株式会社マルサン精密：鳥屋町



無錫金楊丸三精密有限公司 工場写真

一名門繊維企業の 新分野への進出

三年前社長に就任した笹川修蔵氏は、現在三十五歳。大学卒業後、家業である名門繊維企業丸三織布(株)の後継者たるべく、その道には進まず、別分野の鉄鋼流通商社(問屋)で修行し、新分野進出を目指して新たに設立された(株)マルサン精密の社長に就任したのであった。

御承知の通り繊維産業は、今大変な苦境に立たされている。勿論すぐれた技術を駆使し、優秀な業績をあげている企業も多く、丸三織布(株)もその一つだが、業界をおおう趨勢には如何ともなしがたく、新天地を求めて新たに同社を設立したのである。

二 プレス深絞り 加工技術を磨く

(株)マルサン精密は、電池ケースなどのプレス深絞り加工を中心として、金属精密加工を手がける企業である。しかし設立当初は、社内にもその方面の専門家はいなかった。やむをえず工場長(現在常務取締役)が単身で得意先へ技術修得に向かかねばならなかった。設立後四、五年は、会社

全体が「見習い」と言っていた状態だったのである。

しかし努力に努力を重ね工夫に工夫を重ねれば、結果は自からついてくる。現在では大手メーカーから直接受注するなど、技術力にかけては「全国一」を自負できるほどの企業に成長したのである。

三 国内生産の限界

「直径対深さの比率」を一本のタバコなみにまで高めた電池ケースを主力製品とする同社の加工技術は、先述の通り、日本有数といつてよい。しかし発注メーカーのコストダウン要請は非常にきびしく、また中韓を中心とするアジア諸国の追上げもまたきびしい。更にアジアの有力企業と取引しようとする、品質確保のために全数検査を要求される。

同社はコスト削減のために血の滲むような努力を重ねて



左：社長の笹川修蔵氏 右：監査役の笹川修三郎氏

きたが、何分、低人件費で、品質レベルが向上してきたアジア企業が競争相手であり、小手先の改善くらいでは「焼け石に水」に近く、高コストでの国内生産に限界を感じ、意を決して中国と韓国に進出することにしたのである。

四 新しい挑戦 中韓への進出

中国や韓国の製造業は、今大変な勢いで進歩し発展を遂げている。国内での生産に限界を感じた同社は、伝を求めて中韓の企業と接触し、合併企業の設立にこぎつけた。

発注元企業から、今まで自社で生産していたプレスライナーの一つを受託する形で操業することとし、韓国企業は昨年未から既に生産に入り、現在一五〇〇万個/円の体制が

出来上っている。中国企業は三月より本格的に稼働を始める。いま全国の中小企業はアジア製品との競合で、大変厳しい立場に立たされている。しかし優れた技術は世界で通用する。優れた技術を持つた企業の生き残り策の一つとしては、自社も低コスト国で生産することがあり、その貴重な事例として、今回は(株)マルサン精密を紹介した。

ただ、同社は「海外生産開始後の技術力の源泉としての国内工場の維持」及び「数年後に予想される合併企業の第二ステージへの突入」という二つの大きな課題に直面する。これらが解決されたとき初めて同社は「真の世界企業」へと飛躍を遂げたことになるだろう。

(お問い合わせ)

株式会社マルサン精密

〒九一九 一七〇四

石川県鹿島郡鳥屋町

字末坂夕部一六〇番地

TEL〇七六七 七四 一六七二

FAX〇七六七 七四 一〇〇五

http://maru-3.jp

e-mail marusan@p03.nsknet.or.jp

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会をお訪ねください。